

# 猿新聞

編集責任者  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp  
名張鳥獣害問題連絡会  
発行部数  
【全戸回覧】  
錦生地区：100部  
赤目地区：150部  
箕曲地区：70部  
ひなち地区：220部  
つつじが丘：430部  
【全戸配布】  
国津地区：380部  
市民センター：90部  
(9地区)  
名張市議会：20部  
名張市役所：30部

## 環境の変化がサルを呼び込んだ

本来、サルは臆病な動物で生活の中心は奥山の広葉樹林だったのです。しかし、近年、彼らの生活の場は集落や市街地へと移り変わり広がってきています。背景には、私たち人間の生活様式の変化や、自然生態系への関わり方が、この数十年で大きく変化してきたことが主因にあります。

急激に進んだ市街地再開事業や、里山の衰退・人工林の管理不足、耕作放棄地の増加などがあります。日本では昔から、自然の生態系は、森林や原野などの自然環境と、それらの植生を食



新居浜市HPより引用

◆市街地開発事業  
近年、サルが人間の生活圏に頻りに侵入するようになり被害が深刻化して、まれに人身被害も発生しています。問題の原因は、人口減少に伴う市街地の空洞化や、集落での過疎高齢化があります。しかし、よくよく考えてみると、今人間が住む街は、サル達、野生動物の生息圏であったのです。それを大規模な市街地開発などにより、自然が持つ多面的な機能や多様な生物がもたらすさまざまな恵みを将来にわたって失ってしまうのです。

◆拡大造林政策  
戦後、木材供給のためにブナやナラ類など広葉樹を伐採し、木材用に植林されたスギやヒノキだけの単純な人工林が広範囲に造られてきました。所謂、拡大造林政策です。その後、海外の安い木材が輸入され国産の木材の



森林破壊  
環境省「世界の森林を守るために」より引用

需要が少なくなると、打ちや刈りなどの管理が行き届かず、その多くが見通しの悪い、暗い人工林になっていきます。日本は国土の67%が森林。しかし、そのうち自然林は国土の18%に過ぎません。自然性の高い森林は、それ自体が保全の対象であり、多様な動植物を将来にわたって存続させていくための、かけがえのない生息・生育環境だったのです。かつての姿を取り戻すまでに100年以上の取り組みが必要だといわれる地域もあります。

◆農作物依存  
野生動物にとつての餌は確実性が低く、季節や年毎の変動も大きく、冬場や凶作の年では餌が不足して餓死したり、抵抗力の低下から自然死する個体が多くありました。だが、今では過疎・高齢化が進展する中山間地域では、耕作放棄地が増え豊富な餌の提供場所となつていきます。しかも耕作放棄地は侵入ルートにもなっています。放任果樹、無防備な菜園の増加などで、一年を通してサル達、野生動物は栄養価の高い餌を摂取する機会が増え定着化が進んでいます。しかもこの状態に至った場合には被害は急速に拡大していくと考えられています。

◆追い上げ棲み分け  
サルが、空き地や林道沿いに多いクワの実や畦道のクローバーなどに集中して食べているのをよく見かけます。これが民家や田畑から離れた所であれば、結果的に棲み分けに繋がる効果で、反面、集落や田畑に接近している所であればサルの誘因と言われるのです。また、名張A群エリアでは、集中的に被害の減少する時期があります。それは毎年6月下旬〜7月にかけての出来事です。その頃、青蓮寺湖畔の桑の実が熟れ、ひなち湖周辺ではアカシアの花が咲く時期で、サル達がそれに集中するからです。更に、昔から山のブナの実や里山のドングリなどの豊凶が、サルなど野生動物による農作物の被害に大きく影響するといわれています。ドングリが豊作の時は被害が少なく、凶作の時は被害が増えます。このような実例から、追い上げによる棲み分けは可能な対策であると考えられます。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。

◆中山間地域活性化  
日本の中山間地域は、多様な農産物などの供給や国土・環境保全、水資源のかん養など、集落の人々が日々の生活や農業などを通じて長い年月をかけて守り育んできた、豊かで美しい自然環境に恵まれた日本の原風景を留めている地域です。



# サル小一服

ん、なんと『サルも木から落ちた』のです！

## サルも木から落ちる！！

モンキードッグ1期生認定の平成22年4月以降の数年、モミジ、団十郎2匹は居住地の一ノ井や矢川に現れたサル群れの追い払いで大忙しでした。受持ち地区から追い払っても、数日たてば隣接地から現れる状況が続く、サルに負けてはならんと飼主も知恵を絞り、サル出没ルート情報と現地を検証しながら、受持ち地区の出没防止パトロールを毎朝夕、始めだすと効果の手ごたえを感じました。

ある朝、サル群れが一ノ井の田畑に現れ、イヌたちが山中へ追い込み樹木に避難したサル群れを2匹のモンキードッグが吠えまくり、樹上のサルを体重36kgの団十郎が両足をかけて揺さぶりますと、サルは怖くなって隣の枝に飛び移ったと

「どさっ」と落ちてきたサルに、犬たちは一瞬、身を引き、恐る恐るサルの周りを嗅ぎだし鼻でつつき出したので、飼主は慌ててイヌたちを引き離しました。モンキードッグは追い払いが役目で、殺生してはいけません。

イヌどもを引き離した後、サルの落下地点に行くとサルの姿は有りません。血のりの痕もありません。「???」サルは『死んだふりした』のでしょうか。それ以降、何故か、一ノ井にはサル群れの出没はありません。

サルは一度怖い目に遭うと、「その地域を避ける」と、素人考えの体験で実感しました。

注：文中の2匹とも天国。今はシロウが頑張っています。応援よろしく！

文・畠山 ひさ子

## 名張A・B群遊動域の変化

地区名	15年 程前の遊動域	現在の遊動域	
名張A群	国津地区	奈垣・羽根・紙屋・布生上出 布生下出上長瀬・長瀬・吉原・百々	奈垣・羽根・神屋・百々
	比奈知地区	下比奈知・上比奈知・滝之原 滝之原小学校周辺・富貴ヶ丘	下比奈知・上比奈知・富貴ヶ丘 ひなち湖
	つつじが丘	つつじが丘全域	つつじが丘全域
	箕曲地区	中知山。青蓮寺湖・青蓮寺・青峰高校周辺 ぶどう園	中知山・青蓮寺湖
	香落溪 青山町	香落溪 曾爾村 上高尾・下高尾・奥出・中出・神出・酒屋 種生・山立下・寺脇・小川内・床並・出会 赤岩神社	香落溪 上高尾・下高尾・奥出・中出 酒屋・種生・山立下・寺脇・床並 出会・老川・奥・腰山・中央
名張B群	赤目地区	長坂・柏原・星川・一ノ井	赤目滝（長坂区）
	錦生地区	錦生地区全域・大屋戸	安部田（四季が丘・鹿高）
	宇陀市	三本松・砥取・滝谷・西谷・蕨・伊賀竜口 大和龍口・室生・下田口・内牧・八滝 諸木野・赤植・高井・白明・檜牧・荷坂	深野・三本松・長瀬・古大野

※15年前は、名張A群の遊動範囲が、現在は青山A群の遊動域に変わってきている。  
 ※名張B群は、大量捕獲後、大幅に遊動域を狭めている。  
 ※この表は、古川高志氏提供の資料を参考に作成したものである。

## 野生イノシシ『豚熱』

### 名張市の取り組み状況

三重県内では、桑名市、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松坂市の計10市町において、野生動物のイノシシのCF S感染が確認されています。

（令和2年 6月15日現在）

検査頭数累計  
野生イノシシ検査頭数2685頭。  
198頭陽性。  
2487頭陰性。

（直近検査は令和2年9月8日）

名張市内においても、令和2年4月以降4件陽性。  
現在感染拡大を防ぐため野生イノシシの捕獲と経口ワクチン

（詳しくは三重県ホームページCF S情報を参照）

今回、伊賀農林群共に事務所市川氏から情報を提供して頂きました。

（詳しくは三重県ホームページCF S情報を参照）

今回、伊賀農林群共に事務所市川氏から情報を提供して頂きました。



### お詫びと訂正

紙、9月号農林資源室との懇談会の記事の中で、岩並 伸氏の職名を間違えて掲載いたしました。大変ご迷惑をお掛けいたしました。室長を係長に訂正しお詫び申し上げます。

## サル出没状況



令和2年8月～9月にかけて名張A・B群共に遊動域が狭くなっています。

サルの遊動は、気象条件が深く関わっていることが知られていますが、彼らは遊動域内を熟知していて、夏の暑い時期には涼しいところ、冬には暖かいところを遊動します。

冬場の1・2月には遊動距離は最も短く、3月～4月と長くなっています。今年の夏は記録的な猛暑が続きましたが、それが遊動域の変化に繋がっているのかも知れません。

サルは餌を探しながら遊動域を周回移動して生活しています。遊動域内に餌が豊富にあると、冬には暖かいところを遊動します。

冬場の1・2月には遊動距離は最も短く、3月～4月と長くなっています。今年の夏は記録的な猛暑が続きましたが、それが遊動域の変化に繋がっているのかも知れません。

サルは餌を探しながら遊動域を周回移動して生活しています。遊動域内に餌が豊富にあると、冬には暖かいところを遊動します。